進路指導のための個性調査に関する研究

新潟市立二葉中学校教諭　穴　沢　芳　郎

はじめに

従来の進路指導は，最終学年にだけ集中して行なわれ，しかも教師はあまりにも自らの経験と観察に頼りすぎていた。進路指導においては，進学する生徒や就職する生徒に対して，ひとしくその将来の幸福のために，それぞれの能力の伸長をはかることがたいせつであるのに，従来はなにか進学，就職指導のあっせん業務であるかのごとくうけとられていた。したがって，とかく進学指導は生徒の将来の進路という視点からはなれて，たんに上級学校へ入れればよいという進学指導になりやすく，極端には生徒の適性を無視して，父兄や教師の有名校への進学競争の観を呈する場合が多かった。いわゆる有名校へ一名でも多く入れた教師がすぐれ，高等学校その他への入学率の多少が中学校教育の皮相的評価とうけとられやすかった。このようなふん囲気のもとでは，進路指導は当然のことながら学力偏重におちいり，生徒の学業成績のいかんが教師の生徒理解と観察にひずみを与えてしまう。教師や生徒に人気のある生徒や成績のよい生徒が好まれ，成績の悪い生徒がきらわれやすい傾向がある。教師が教科指導にだけしか力をそそがないタイプであると，どうしても生徒の行動や性格の理解がふじゅうぶんとなりやすいので，いきおい強く関心をよせている学習状態を基にして誤った偏見をもつことになる。また，教師の観察をあやまらせる他の原因として，とかく教師が生徒の外向的な行動や性格特性を重視し，内向的な特性を軽視しやすいものである。このような態度を改めなければ進路指導の方向をあやまってしまう。そこで進路指導のあり方・方法を考え，さらに個人理解の一方法としてのクレペリン精神作業検査，矢田部ギルフォード性格検査を実施し，結果を検討し，この研究を発展させて，現在担任している学級の進路指導に役立てたいと思う。

Ⅰ 進路指導にはどのようなことが必要か。

1 進路に関する知識・情報提供と進路希望調査

(1) 進路の知識・情報

学級担任教師は，生徒の学校生徒における生徒指導の中心であり学習指導，生活指導など全般にわたっての助言者であり，責任者でもある。そのためややもすると自分の担任する学級であるという過剰な意識のからにとじこもり，外の広い視野へ眼を開くというゆとりをなくす結果となってしまう。永年積み重ねた経験による指導は非常にすぐれていることが多いが，時には新しい社会の動きに同調しない固執性をもっている。進路指導においては特に広い視野に立って，生徒がじゅうぶん自らの進路にわだかまる情勢を分析できるような情報を提供しなければならない。

それではどのような知識，情報を提供したらよいだろうか。

ア　職業，上級学校などについて

a　職業についての理解

○職業観　○産業分類，職業分類の見方　○勤労の意義と職業観　○おもな職業の内容や特色　○資格を必要とする職業　等

b　上級学校についての理解

○各種学校の内容，体系や制度，特色　○高等学校の性格や目標　○通信教育について　○育英制度の概要　等

イ　就職（家事，家業従事をふくむ）や進学についての知識

a　就職や進学の意義と心構え

b　求人，求職の状況と公共職業安定所の機能

c　事業所の選びかた

d　進学先の特色と選びかた

e　採用試験の受けかたと心構え，入学試験の手続き，受けかたと心構え

f　勤労と勉学の両立について

ウ　将来の生活における適応についての理解

a　職業生活の充実と向上および道徳

b　職業生活における人間関係

c　悩みの解決の態度

d　転職と離職について

e　失業の意味とその対策

(2) 進路希望調査

情報の提供に基づいて生徒がどのように判断し，進路を決定したか進路希望調査を実施する。

2 家庭環境の理解

(1) 生徒の生活は精神的にも経済的にも，家族の一員として成長してきたこと，また進路選択には家庭環境の影響の大きいことを理解させる。

(2) 家庭環境理解の方法

説話や話し合いの中から家庭環境理解の基礎的条件として，「家計」「家族」「家業」の三点を指摘して指導する。

(3) 教師にとっての保護者の意見

進路の決定に際しては，保護者の意見が重要な「かぎ」を握るから，その意見をよく傾聴し，相談に応じてやらなくてはならない。

ア 保護者との相談をとおして問題点（生徒の性格，学業，趣味，適性，家族関係，家業）をとらえる。

イ 保護者と生徒の一致した意見で進路がきめられるように家族生徒の意見の調和を図るように指導する。

ウ 家庭の環境（親子関係，経済面，教育に対する関心）はどうか，地域の環境はどうかをよく知る。

3 個人理解

(1) 将来の進路について生徒の素質をじゅうぶん発揮させ，伸長させるためにも生徒をよく理解し，生徒もまた自らをしっかり理解し自覚する必要がある。そのためには個人に関するいろいろな資料が必要となってくるし，資料を得るための適切な方法が考えられなければならない。諸検査，諸調査，面接，訪問，観察，自叙伝，医学的診断，学業成績などがある。

(2) 文部省の職業指導の手びきに示されている個人理解のための資料のおもたものに，知能検査，職業興味，適性検査，学力検査，性格検査，希望調査，身体の記録，体力測定，家庭環境調査，生徒指導要録，自己分析，観察，保護者の意見調査，自叙伝，日記などがある。

(3) 自己分析は生徒自身が判断するために，自己を過大評価したり，過小評価したりすることがある。これを補なうために，

ア 親や家族，友人，先輩，知人，教師などの生徒自身がよく知っている人の評価を参考にして自己理解を深めるようにする。

イ 家庭や地域の環境を理解させ，その環境における自己を認識させる。

ウ 標準化された検査を利用する。

自己だけを見つめても自己理解はじゅうぶんとはいえない。多くの人々と比較してはじめて自己の特徴がはっきりする。標準化された検査の結果は，多くの同年齢の者と比較することができる。本研究では内田クレペリン精神作業検査，矢田部ギルフォード性格検査を実施し，結果を考察することによって個人理解のための一助とした。

4 進路相談（カウンセリング）

(1) 中学校学習指導要領では「個々の生徒に対する進路指導を徹底するためには，適当な機会をとらえて面接相談を行なうことが望ましい」と明示され，新教育課程の中に位置づけられた。ただ生徒と向かい合って話を聞き，話をするだけのその場かぎりの相談でなく，専門的な相談も必要となってくる。生徒が自分から進んで相談に来ることはまれである。しかしきっかけさえつかめばスムーズに相談が軌道にのれる。そこではきっかけをつくり生徒との親密感を深めるにはどうすればよいのだろうか。

ア 学級担任教師が親切であり，生徒の個性を尊重し，生徒の秘密を絶対に守るという実績を作る。

イ 相談室，面接室などを特別に設置し，生徒が自由に落着いた気持ちで相談できるようにする。

ウ 生徒を明るい表情で迎え，親しみやすい言葉をかけ，生徒が特に関心がある話題などによって会話を始めるように配慮する。

エ 叱ったり，説教する所と混同してはならないし，生徒に過信や誤解を受けないようにする。

(2) 面接相談のやりかた

ア 指示的方法（相談員中心の方法）

情報の提供とか，一般的なリード，提案，解釈，説得などが相談の中心となる。注意することは，あくまで自分の問題として自分で解決するという態度をとらせるように指導し，援助する。

イ 非指示的方法（来談者中心の方法）

学級担任は生徒の言動その他から，生徒を理解しようとつとめるようにして，情報の提供，説得，提案などはしない。

ウ 折衷的方法

ア，イの二方法のよい点をとり入れて，いろいろな資料や方法を自由に用いて面接を行なう。

面接相談を行なって生徒の訴え，悩みを聞き，問題解決のための援助をしたが，もっと早く，しかも長期にわたり継続的に実施しなくてはならないと，当然のことながら痛感させられた。

II 個性調査のための諸検査について

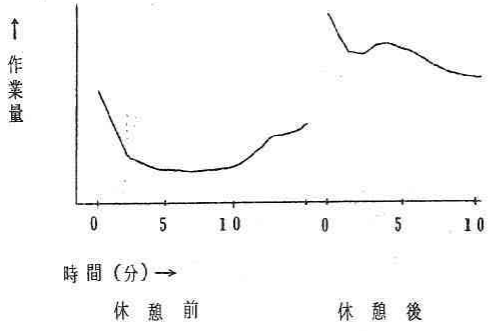
1 内田クレペリン精神作業検査

(1) 精神作業検査とはなにか。

精神作業とは，一定の目的のもとに一定の成果を収めようとする人間の精神活動のすべてをさしている。こう考えるとわれわれの日常生活は，すべてこのような精神作業の連続といえる。人間の行動の特徴は，日常作業のやりかたの方式によって決まるといってよい。この検査は結局，このような作業（仕事）のしぶりを見ることにより，人間の精神の働きぐあいを測定しようとするものである。作業

量を1分ごとに測定して，それを曲線に表わすのは，作業の推移の状況を見るためである。この曲線を作業曲線と呼ぶが，単なる作業検査ではなく，その仕事ぶりをとおして人間の個性や人格的特徴を判断しようとする検査であるといえる。

第1図　正常精神作業曲線（同検査手引より）



第1図は社会のいろいろな階層の健康者1万人の平均の正常作業曲線である。

(2)　曲線型と性格との関係

作業曲線にあらわれる特定の傾向と性格特徴との間には，かなり関係があることは，以前から認められていた。その関係を簡単に記すと次のようになる。

ア　定　型（U）

作業曲線がU字型のもので，回帰性性格の者に著しく多い。

イ　上昇型（E）

曲線の後半が上がるもので，（回帰性性格＋てんかん性性格）の人に著しく多い。

ウ　中高型（M）

分裂性性格の人に最も多い。

エ　下降型（L）

曲線が下降ぎみのもので，性格型よりはむしろ心身の虚弱または疾患，障害と考えられる。

オ　水平型（H）

分裂性性格の無感動型のものに多い。

カ　波状型（W）

曲線がはげしく上下動するもので，神経症のものに多い。非行少年には，この型の出る率が多い。

2　矢田部ギルフォード性格検査

この検査では情緒安定性，社会適応性や衝動，活動，主導性などの，12の性格特性が調べられる。

プロフィールの全体傾向を診断することが一番大事なことであり特に顕著なタイプを考えてみると次のようになる。

(1)　平均型　　万事につけて平均調和的で適応的なタイプである。

(2)　右寄り型　情緒不安定，社会的不適応，活動的，外向的な人で，問題をおこしやすい。反社会的行動にでやすい。

(3)　左寄り型　おとなしく消極的，安定した人格であるが，内向的である点，注意を要する。

(4)　右下り型　情緒的に安定し，社会的適応もよく，活動的で対人関係もうまくいくタイプである。

(5)　左下り型　情緒不安定，社会的不適応，内向性が特徴で，ノイローゼ気味のある人である。指導上注意が必要である。

3　職業適性検査（労働省編）

この検査は，多くの職業分野で一人前の仕事をするために必要ないくつかの適性を測定することを目的として考案された。この検査によって得られた資料は，求職者の就業または選択しようとする職業上の資質的条件と被験者の性格，能力とを比較し，その適切な職業選択を助けるためのものである。

なお，適職群の記号について説明を加えると次のようになる。

G　知能　　V　言語能力　　N　算数能力　　S　空間判断力　　P　形態知覚　　Q　書記的知覚　　A　眼と手の共応度　　T　運動速度

F　手先の器用さ（速く正確に指を動かす）

M　手先の器用さ（手を楽々と巧みに動かす力）

Ⅲ　諸検査の結果と考察

前述の諸検査を現在担任する学級の生徒全員に実施した。その結果については，すでに生徒の進路指導に活用されているが，ここでは紙面のつごうもあり，その2〜3例について検査の結果とその考察を整理してみる。

なお，進学希望する生徒には職業適性検査を実施しなかった。

1　M．K．（男子）（無気力・欠損家庭）

○小柄，がっちりしている。健康体。

○無口，無気力，付和雷同する。父死亡。

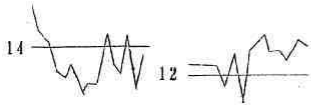
○知能検査換算値（S.D.）33　学業成績　最下位。就職希望

(1)　クレペリン精神作業検査

○後半，初頭努力なし。休憩効果がない。

○混合型（L－E）

第2図　M．K．の精神作業曲線



休憩前　　休憩後

回帰性十てんかん性，持久力欠けている。鈍重な印象を受ける。

(2) 矢田部ギルフォード性格検査

○左寄り型

○陰気で，愛想がない。人づきあいも少なく，活動的でない。

○反省が少ない。鈍重な印象を受けるが，物事は気にしない。

(3) 職業適性検査

適職群……N－S－M̈　車輪取付け，鉛管取付け関連作業など。

(4) 所見

クレペリン検査から，根気のなさ，作業能率の悪い点が気にかかるが，単純な作業ならよいと思う。本人は自動車修理工を希望し，一たんはその方面の職業に就職決定したが，家族が遠くへ出したくないという希望で取りやめた。

2　R．K．（男子）（行動面に問題がある）

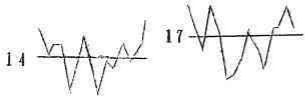
○小柄，がっちりしている。健康体。

○活動的だが，落着きがない。すぐ調子にのってさわぐ。

○知能検査換算値（S.D.）33　学業成績下位。進学希望。

(1) クレペリン精神作業検査

第3図　R．K．の精神作業曲線



休憩前　　休憩後

○作業量きわめて少ない。

○作業曲線にムラがある。

○波状型（W）
回帰性性格十ヒステリー性性格

(2) 矢田部ギルフォード性格検査

○右寄り型

○楽天的で，他とよく交わる。情緒不安定。

○自己反省が少ない。やや不満が多い。服従型。

(3) 職業適性検査

能力的なものか，作業にムラのあるせいか，適職群検出不能であった。

(4) 所見

諸検査からは，いずれも悲観的材料しか集まらなかったがそのまま放置しておかれない。くり返し落ち着き意欲を出させるように指導し，高校進学を目指してがん張るように励まし援助している。

3　S．T．（男子）（ボス格）

○細長，長身型。顔　すぐれない。貧血症。

○言動活発，やや感情的で，攻撃型。

○知能検査換算値（S.D.）58　学業成績　中位。進学希望。

(1) クレペリン精神作業検査

第4図　S．T．の精神作業曲線

休憩前　　休憩後

○後半，初頭努力がない。

○慣れがみられない。ムラ気がある。

○物事，はじめは熱中する。

○混合型（H－W）
分裂性性格十ヒステリー性性格

(2) 矢田部ギルフォード性格検査

○典型的な右寄り型

○気分変化が大きく，行動にムラがある。

○活動的で，人の先頭に立ってやる。

○情緒不安定の傾向がある。

○人づきあいがよい。

○攻撃的であるが，時にフッと考え込むところがある。

○指導上注意を要する。

(3) 職業適性検査は実施しなかった。

(4) 所　見

諸検査にあらわれたように，指導を一歩あやまると悪い方のリーダーになる心配がある生徒であるが，幸い応援団幹部のポストを与えられ，それが本人の自覚を促がしたせいか，積極的に責任ある行動をとるようになった。ひいては学習面でも効果をあげつつあり，今後も指導の手をゆるめず，人格向上の援助を続けたい。

4　R．M．（女子）

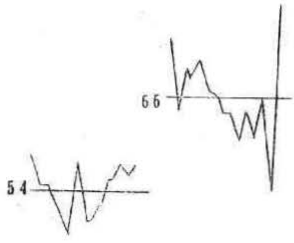
○体格，均斉がとれている。健康。

○活発，勝気，積極的な性格，父死亡

○知能検査換算値（S.D.）48 学業成績上位。進学希望。

(1) クレペリン精神作業検査

第5図 R・M の精神作業曲線



休憩前　　休憩後

○休憩効果が大きい。

○休憩後の後半は疲労ぎみ。

○緊張と慣れで作業量は増すが，体力のせいか疲労ぎみで，作業量低下した。

○混合型（U-L）回復性・耐久力を欠く。

(2) 矢田部ギルフォード性格検査

○活動的，支配的で思った事ははっきりいい，負けていない。

○気分にムラがあり，不満がある。

○一面，心配性，神経質な所があり，自信のない所がある。

(3) 職業適性検査は実施しなかった。

(4) 所　見

3年の前半までは成績もよく，希望校進学文句なしと思っていたが，2学期後半より，やや下降ぎみである。クレペリン検査の示す通りである。また性格面でも性格検査で示された心配性，自信のなさがあらわれ，進学希望校が危ぶまれる状態となってきた。観察だけでは知り得ない事を諸検査でははっきりとあらわしており，観察だけに頼っていた指導には頂門の一針であり，今後の指導に大きな示唆を与えてくれた。

むすび

研修中および研修修了後現場へ帰えってからの進路指導上痛感したことは，従来とってきた進路指導がいかにあいまいであり，そのため教師，親，生徒が進路を決定するにあたっても，多くの問題点を取り残してきたかということであった。この反省の上に立って，今後の進路指導，生徒指導のあり方を考えて「むすび」としたい。

1　進路指導は第1学年の当初から計画的，継続的に長期にわたり指導されなければならない。

2　進路指導計画は教科指導や道徳教育，学級活動計画などと関連して綿密に作成しなくてはならない。

3　個人理解のために標準諸検査を早期にぜひやる必要がある。

4　就職，進学の情報や知識を早期に与えなくてはならない。

5　職場見学や実習，または上級学校その他の教育施設の見学など，具体的な実際経験をとおして理解させる。

6　公共職業安定所の職員との職業相談には，本人，親だけでなく担任教師もぜひ参加したほうがよい。

7　問題解決には親の理解を求めなくてはならない。定期的に面接日をもうけ，よく話し合い，家庭環境をより一層理解して，問題解決へと努力しなくてはならない。

8　生徒の職業への関心，職業に対する見方，職業に対する心構えを調べ，進路指導の面から問題の所在をはっきりつかむ。

9　進路相談を充実させなくてはならない。しかし多人数をかかえた担任教師は，とても一人一人とじっくり話し合う余裕がないならば，せめて生活ノート（生徒が感想，悩み，人生観などを自由に書くノート）を活用して，生徒の環境の理解につとめなくてはならない。

10　公共職業安定所との関係については，特に職業安定法の内容を理解し，協力しなければならない。各種アルバイトには労働基準法が適用されることも認識しておかなくてはならない。

以上の諸点が，進路指導の実践に移されるならば理想的であるが少しでもこの理想に近づくように努力を続けたいものである。

参　考　文　献

1) クレペリン精神作業検査解説　横田　象一郎
2) 生徒指導用内田クレペリン検査法　小林　晃夫
3) 中学校進路指導細案　横田弘之・吉田　稔・小林信重
4) 中学校の進路指導　川合　章
5) 中学生の心理と教育　大西　誠一郎
6) 相談心理学　沢田　慶輔
7) 教育相談の実際　鈴木　清・品川不二郎
8) 学校教育相談　品川　不二郎
9) 教育相談・カウンセリング　井坂行男・勝部真長・沢田慶輔
10) 教育相談ハンドブック　品川　不二郎
11) わが子の進学20問　辰見　敏夫
12) 性格異常と指導　性格心理学講座
13) 教育心理　Vol 8 No 6　日本文化科学社